984**4**5788

て津ラと中 2 内方の目をる 古之ブ服学僕で容テ義で反と編 郷の部でかわを1務 書種の集 のの女の`古く変マとくしこ部 古の古金墳。更は しょっとか 増子増積を す気 てうじご 5 をををで塚初 るは要 にる古会 古の 墳出 見見引いるめ こず語 堵 報 てき葦北て とかさ会僕研で 研会 の歩連陽塚晃 をしれ費に宛古 究() かいれ高、た 初くたをは私境佐部 め、"私上買特藤 うた ` のこの 会 春。駅時子は「に勝こう記に集一展 日初家は塚塵 断手うたの原を夫 のめ、クな取 わにい者題稿す 任会ものだ存対歴示社ら重タリ 5 銭

史し会70にて古れず 三成 ? 亡 Ł 神 学への年なか墳こ恥古 始の立考を ため内を古る歴会い右代りら時トを導 、容気学け欠けた傾にまだ代のかで 僕仲で明で国は、『化るすっと出』 帰 の間友しは家何こ大にけったの墳だり 大と人よ、論をの学対、 。出と思 の 学共とう遺研担よ紛し社当こ会のいべ かにマと麻索えう争て会時れ口出出 ス 5弥儿しかにまなで行に60かは会歩で 蓉 の生りてら取か社あ動敏年ら、いあ

研でスリ古組)会るで感代過大とる理 究卒のた代ん学状の考な後敷学りの参

テ論学 国で問沢また者,半なにう を

名習集家りのにだをはか文みよ

発用の 指限の 古墳とはつ

発行所 福山市西南神町 7由4540名。

と言もとのらりで と感め会り 号数の証のマ りはしいこえがあ個思して等方さは年古す動か り正ろうのを口る々うて書でにて全の墳る向、 けし地所谷けりかの。 り域謂のれバ`ち るうべす僕ふとみづ芦代 LZ屋に細古ばれる墳 の史コ土墳をなこを とはい考備りあよる川家 左認り史はS世に押 い画固家よな界とえ 中を手はくい感じる 曾設っ八知。のまて にい、部墳い会っと動あ 根またやっこもらと くら人うてのとすは んせのナい地に、必 をる。発信る方とよ要

古

バト数葬在の ラでにもに極 では影るお限 う、饗方りに 癸 にまさ法て近 生 しだれはもい 1= て島て、と神っ 葬様 そ世こ谷い 島と相の界る和 ド云を地のま考

喰っ異の各で

てに風地発

・しよて達

死于冷死し

体べ、体た文

をツ宗を現明

を思るえ南しりうの流成 最わのはのく、に方域立 後なで、古な部を法のに 書がこ会時の長たしき き、ての代だな。スかり た日で学のが了こ備5 い々攻智方。称こ南接備 思象ス学らに域み をの`な声でで 教い任歴る た 断め育と 左 ・の思もに恐 ٦, きよ可うっ関く るり能のてわな 研グ性で発るる 突りをお言者今 者り信るしは日 にバじ゜て、 をルてまい 自の りにいたか分頃 た歴る、ねので い史を歴ば研り 5. 史存究地

いこ述対、くこをじを

ことてるのさでる、田国

う まこしれ社の会国よ これをか影をらるせ れた、会との大う獲異る折ら響と死所 意 古す S。葬の支中陸に文九骨リ、さゝ休もと 味 增 て" と のこる統配でな葬時まみま屈れたはあ云 · 11 祝の方率さっち S代す出 げ 葬 てよ土りう 率文法者れ貧農れに° ± てという中ま 高土 葬 者のにかる 富耕たけ し 葬云左でにすれ 塚を の本も出もの文の・`ゝゝい`埋。の と高 境題差現の差化でど そたて縄中め日方 墓とぶしと、かしの の事、文国る本法、 を左生への支伝と死 事か遺 時等とでを 呼く ばも たき さるじく差配揺う者 をう踊代の云はと るた し古てるか すしがも 証かのの文う古っ 事夢 きに登る、同明水手遺化方 (7 ŧ z 增 7 いはまつじも社中し、しか足跡に法かい あい て合に前 云し古 かあ 代世 古全内らが余にり うて境多り初い体分方日と私境国の四あ 步和 性行のくご期ましけ後本云かのに各世る 馬 0 格な造見しのすてS円のっS造るや乳と 大い のか営らな古。色れ墳古て六営のたのこ 国魏 他れはれも墳 マま、墳り世か分古初ろ にの危 に、、ま巨の・のす円はま紅盛布境のか 家女 個 形が墳、す頃んかかにら **亥**王人 ·古支寸大多 そ瓊配。なく の 、盛 。また広出かい 伭 古こ及土 で行か現け三 のは下こ規は > 増れがの 古たのれ模前 のこっして世た 国 墳だ貝Sを方 がら方形 間をてる。 **Q**/' 乳と を単衆の持後 形の墳墳 をわいれ銭の云 的人 成古の丘 古れき以内後 造にを巨つ円 3 さ瓊三か 墳たま後種羊記れが考ら 時四丈。戸が載 営墓動大も墳 半款 しと買なので

维胄坚

浓

1984年5月13日 (4) 備農史探訪 合法ロニな古に発来 た 末とのすか れお の悪猫ったた稲古 でペ、左る塔力展し六権 、た芦わとかをし、世力 箱与力 石木農場 次か田札:小入)朝紅着 我りを勢乞の蚤な副 石主務製丁銀から のう川左ス型れ権廷のの 葎 機た流くツ化るガヤギ象 枪才示晨左爷始の品 か。丁具やナま出に 会の域な力しよ者貴ば彼 にでのリソスラメ族・と お良るのかきり土 っ 副によ普最及ご品 い ます古ま古いに盛の日も りか増し墳きなん保本な 基 弥う及古 びそに 7. し、たたの、るに誰にこ 品生などの収れは ま紙つ。 造七に造の仏た は時副共出種に ナ面い福営世つ寺も教の 出代恭に主に使目。 土前品首品使用本 ** 。のて山が紀れ造と ※ご 都も、周行に、仏と渡 し助へ長でわさて さて東ご歌王対して # のへ - x 1) すれいまのを日方り作録 まで海 たてで鏡描、向まらは 農 發漁 このはき東になれ す 具 な 工具 具 物 宗畿広畿、王交形た 古 でご の「抜」 放内い内銀母き態物縁 璫 鉄み鎌別大す 的か地を交の出はと神 時 銛:、草刀。 玙 たら域中が神つ ナ歎 代 · 斧镊、 代 宝地の心書仏り縁る鏡 新 魚、短剣の 器方ちにかとまの説で TR 刀中、副 との瓊されごナ断か 又 11 子:精 **思着かれて麓。面有最** 奉 後 约: 0 0 わ長ら州の唐文か为近 羊 九片出分手左接面片は 針 は L て配土らすではの左目 粉

い布し関。の西反。本

"

二水丸飾消 側軍地政事のな大 に銅もれ解ま の目玉、成古さ事方更たそり座古副器、た来す **畸立:节し增世的有次刀身主伝境非、碧** 沙 準 と 代な小金、時まを力数剣具す米時さる玉が式 たま五具金代す 力首多、、の代れし製造鏡鏡 を長く甲須え技のるて腕加をは **†** : 領の 出 土 · 切玉翻後 誇か交傳恵れ術中よ多飾し模 し又小類工期 示鉄堀左器はに期う 多、 ŧ 79五: し器さどを馬よににの石すて化。 İ۲ てをれのど具る左左武装 り恵、勾足は て器が玉:清 い多:策で、もりり具器他本 "のラ、垂石 たく大製す冠のま ま等台のでヌ 多不管節製 事 筆和の ** ※ すすが ·副务 (五五什品 をめ政武 金多と 多筒素 梅瓜克、耳瓜 推飞推器。銀人、 臺 至 品さ獎

型

L

BL

告製

てす 優増よ然隔し推 始期わ日式へ様 古重のコとにか定副ままれ用土りに 7 埼で造て配露しす罪りかて品 Z 哭 まよ 共時あ営う置せ迫る品、らいとの すっ に代る年のさら葬資はこ、 t ŧ L系 1 かべ代配れれの料、れ硬し 7. 緑 占 年 で副終きの置たて時とそを質だ、を墳代 す 雅力 で推分り ・、しの須の。又で時の 品りす 定変し新最て境恵陶し祭く代区 。にかまた初活墜器質か祀荃前分 は 意 火 使 っすなの用のと土しゃ焼りの 味蓉 用た。副副さ造呼器古葬のに指 \$ 3° すり又葬葬れ営びの増展土財操 るで盗品品ま年ま生時に卸し、 失一 般 に、堤が水す代す産代も器き弥さ (も古に密方。をうか中使か生れ L 14

長で墳 てそうにお首威ごは変に配祀る ク拡左であの構巨る長をし、化変者と首古 ラが築うらま造大。層も、よに化のし長墳 ス、造いわま及化そのつ新りよし権てのに してでうれ権がのの動てた権りた力の霊よ か行き状で力副方為向人な力知しを性をる、例案人る況人及葬向、在民政的ると誇格社祭 終造。階にるが品に古反に治な事は示かる社 木 でつ級於機財に向墳映の的支が、すら共が山 きま層でに力於いのしで、配でそる、同、口栓 なりか、なのて、規ても階のきの単事体初哲に か今で次る後でそ模いう級確る副な制の期品つ 葬る的集に い っま層第 。別れのもると的立。 たでににとら規次のすなをで品厚な団お 古首ま古 しが模第でる権めれの葬支祭け 言こ墳権、け限のにこり財 も当てま墳 於説とえの左力をよを規事で、力この反のでが てもこる法築 かつか模葬 古ののがに背 令造財後とえ、令時墳象為大よ景造も *ある にし力も試、労友のの微、きるにでよ続の多み古役発朝乱と古い農はき そりが のに るけ誇くて墳日布延築し墳と業、 思伝五 効で示のいの数しはをてとい生新様規 想来三 果いの豪う乱、大招のいえ産しな模はる局族。築労身化い意うよ力い状な がしハ 次た年 第2宝 にさ五 古九二 墳る年 たはり己がをの古た。にか、ま具たス 榮仏江 かか に と、古のらか制ر毛を

墳

研

兖

副

部長

宝るかうと

誇の万物のれがする 示建様が為 れ財い、方の立に前 整 う内る方へな時内を 法义 下丫族 ら芝 て向ら違に 3 す はっれの翌在古 寺では榴女と培 建や院はじかま 立が左古め、つて 11 か。 建填て財るみ 14 ク 中力寺5構 豪立 え向族すっくの院れ築るわ

あよ

Ē

そ 人君 9 して 君 7 th on 当を 古のいりがのの古今 陽 7 る呼服名こぶる前 飾み墳頃 名 賁 はてで E のの前 の私はしら 頭約 主地 て"の * 主 7 の君 15 をか 名呼主君の知よ持 の受な 権計よ ずの結 。をば地達 辺 ţ け 南 4 5 リナいり教れはのは 山配了 た 斜 ` E 7) 今 だ下照面 2 Z 仲 (1 金してい当 क · 939 自 身のは くた時が猿 教 古山 山 振い耳想 れる 冠 がえ も墳裾 は つ輪像なだも数 E 7 の近 **付** व ।। 3 った場 縁主く <

职上

7

古墳の主よ

エ (立石さんは) (焼酎か) 好き!

東口画

やや都い。 。つのだのや ンサ村

君い Z 出 のR 5 t 物心 P 草 N · 君 から な 웅 がら、 た 君 す 5. 死 ボ 3 E 、竪中の・ 傷 君 5 1者も出たろうの墓づくり

墓 あ 石 Ī 室 れは 残

荘厳

かも知りた な葬儀が見る 出 Z 生よ。 こかしい。 などのように 葬られたいと思う。 たろ見 と思う。 った。 華麗 葬られた 利された 単され

君よ

来

ठ

填

の

主
よ

たで

あ

3

程

国

5

t 庁

ただ

土 は

地

大とだ村王 い 転人 度 きがいがを きが 日六 し 本 西五 由 国 年 中 K 皆 ما

ŧ

۲

大化 た。 は よりのお野 君が古 きょ

た

۲

君

t[†].

た 11 墳 死 その間 0) す ٨ 君 で か 主よ に霊あ ζ 様

もうチ らば 々な時代 三百 出 2 变 *tt*" 军 ŧ 過ぎて (1 たっ 話を

立な国司やか ۱v う 班王 結 田の仮役 郡授人

土床

から這

L,

飢えた

君

は

この

卫

0)

里

E

K

な

1)

大

k

なっ

た

3

ぅ

な

7

世

だど やの米 to な かるった は 中に うま た かさくかえい **かえ** 。っ た

11

出たろう名も

に適け

貢 かを府 ф の ŋ 国庁 ょ 5 聞け 5 k へ運ぶ か 4 7 Z 7 微 团

他末な弁当持っていか。 田 Þ 通人 ר δ 5 背 些气" 国 木蜡 を通 È 時 ወ

一、きっ て荒俗を通ってのように、箱田 のように とそうだ 3 出 う. 1 出 7

7

b 役 んろうな。 K H

その時 Ġ もっ O) 栋 3. け ŧ 7 团

飲みながらまったに違いないと考えためですが、御当 立石さんのこの春日 を悩ましました。当編集部ではこれはキアと酒でも を古墳特集のどこにはめこむかにつころはずい分頭 編 集うらばな σĭ 如く不可思議

ち文章

人の弁によるとついや私は飲んでません」とのことで

5

۲ I.

んと

智

7

な

あ

う出

るだ全今す心ぱよ *tr* 11 人は J ちとがぺん 3 明い だ 類 思 ズ 1 程 もあ な k ジょ 話 悪がるい あ 3 3 数。 い滅し くは 3 ょ L H 事 11 tr" ቲ 7 足多 原 な 2" 变 てき \$ S 170 ねな व 淵 爆 內 た な ずの 1.1 3 たか ガ そまあい うえるか 酒 高 水あ क 0 Z 立 11 爆るも 食 本 官 <u>ک</u> ا L がよ でわ な 9 7 k 。飲 だ 書 いあ 話 1 はか ŧ 3 みより 7 < h 7 った * tz あ 6 少3 な

で子に氏、まに朝で末尊 、明し地あ禅本 中 で寄初はだ氏正なててる は山移に楢 明城さよ崎 続進期な鎌よ慶点いは二の を国 世 いさ足い倉り二がるあ子てれ利、幕陽年多。る山 王置時份 る山禅い代楢 7は と永備 ス府っ(1333)いし が城 1) 戦見伝禄中るそに 支 た 自 E 9 か よ久治 之芦近 b 0) 支 佐下伝田 もて年賀備 世 · 0 1> 村でえ郡のそ 支 配て 期備い(1561)郡中 は尾地尊る地書の 配 世山し 文道頭氏が頭物出 職に自 色山居後族に明の職の 城城国でよ年浄は出 当をよにをの山あ 垣のの久毛小間土南る時足るは形小城る

中二佐利ば(物)寺北幕は利と不成盆で。に

(1) 備陽史探訪

1984年5月13日

天守合介 石垣 二子山城島駿図(南西より貝3)

あ 読守 城う 者台 郭かの 究 U 部 はい 20 文 美 黄 田 か 九 義 ろ Ż,

気やけ兵いたたのし道や在時や 海か 感音の地日 っただた隊人航がたけっもの家夏でで鋼謝話経元の鈿 力 硫・たてあ海族にし淋管しを験の姿管 こさ建空 あた # とん,羊てんか隊 空昔ん通りの連なたしがて得で人をの 思なた、もが訓が戦隊はだれま家れる。 BIT い来いるあ々追進 いぬ時牛あ塩糠あ前がバんるしものとあ所るまこりに まかななり田しりは来ス広程たま海、んで前すて、突てにの しるででまをて、韓てはがで、だ水近なしは たみ飲をし作い赤国か天り私、残谷郊さた、以下なくはり鍋 寄下きりつマ大管 かの医飼たっまトのら当私は昔っ客かれ てしょ人こ山の人はてでらい水せ昔 **、勇タイき町** あ海さっ れにんて隣いたボタこ引家力べい大先なはて話地気ビクく よ本がいのる。とが左野の車スま変生海すはを元を二な変引 当みて広と塩呼建通入敷で通すににはき返記の要し あにて、大、かば設る旦地ニソ、ぎ引もとす述人しをぬた町 **ガエ下私水米足れによ迄ものはおや率うう波し々た試/引** よ場この畜機りた従うしだ家狭医かさなっのてのがみし野田 とかい家庭のな訓事にかいへく者でれいた音み厚期たト町 いでまの学鏡の練さななぶ来大さしたできだま意待 うこし牛部撃の機セッケへまハんた小しかけすに以初片あ本 間るたかにをかでらまっりし車の。学りいの、深上の手り実 にのい 病は受、若れしたまたが別当生にな静 くのてにし

九

ŧ

時

9

北

大広 駅を建とらでだ整た 利心風波は 一福をきた クエ 会場今で地設なはは、理の当下 に配のの工鋼ご防てネ鋼ス場 **なで年な元費り当旅たので時さ貨** なは高客場質れいかコ管のが と開の > 負4国時客の際す全ん物 りあ波がかかたでうかが粉塵 行34た担億鉄の駅で、か国の駅 よりで無目来時い当六来じち なか月んと600本立化す南、下話を かまくくのる通た分匹てんま 、せずな前前3の散び急でし たんれりではれて水かに一た われ」です万社石の"北東16 れ、日する円に市運41に福力 たます箕るすしれ交時 まのに 、とも長動年広山所 駅 TO . しごろ 采職陳ををに場駅の もにのしか島のがたま通はト 1= た自局 件員情先わ貨をの新 す あぎでたそやで、りし量公う 慢年 で3に頭ば物確場設 3 りやす。の鞆舗好、たが害っ かたの 54人行にり駅保合駅 運 まかがこ代か装年塩・増もり つ会記 年分三市強がし貨建 動 すに、のり目さにを広えひの てや念 なも石、のれ皇まいたど砂 4のまをくでて物設 E はグ祝 りう垣台前ま太い鋼のかぼ 月管しあ続きい駅の 続 1理たげけてた建請 一質 、そは風でしそて管で、こ 17 ・て、かの設願 ₹ Ξ 面卜式 交のかたした殿砂道飼たり 通よっでたい下ぼ路?でや 日着 ス 1 グリ設願 に5結の525かのか 田ボゲ もうてのこ 旅年局運年地有区あ 周!駅 がこはてすコ 便な台風今 客間・動か元効画? 風儿前 来りでいた て護されもで 7 未教しい み次し て投いどれが教教晴まのでか今 ま回り以 る活て現外17天世都もが回 すはて上 団得、 此用い在くのの人合伝では編 地ら連 覚処のき の古元で上わし 古 のれ体 7" ま 開古墳でし、れよ墳後 街たと 出 烟昔利 す 未 発境をごた此ばう 丘話用 3 办" か歩親が様と 地をし 区揭了 陽教称存 きとあに思 の載地 し在ま子し 部门 古致 うし元 フまの あく 372大 てししのか分ま項し りし人 の刻また 勧 古ら的しのま 変た ヤ ば古つず が頂がにた内し ひ等を追 12 心他ぐっか

ァ保境をにり 出枚